

冬-5 あけましておめでとうございます

1. 活動の目的

- ①日本のお正月の行事や習慣を知る。
- ②今年の目標を決め、新しい気持ちで1年をスタートする。
- ③「笑い」の効用を知り、健康で楽しい生活を送る。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ☆お正月クイズ (クイズ、答え) ※国際交流基金「みんなの教材」から
- ☆「今年の目標」を書く用紙 (人数分コピーする)
 - ・サインペン、あるいは筆ペン
- ☆「お笑い神事」資料
- ☆福笑い (台紙とパーツ)
 - ・目隠し用のタオルかアイマスク (学習者に各自持ってきてもらうのがよい)

3. 活動の手順 **留**: 留意点 **参**: 参考 **発**: 発展的活動

活動1

- ・年末からお正月にかけてどのように過ごしたかを学習者に話してもらう。テキストのイラストの中に、学習者が知っているもの、経験のある事柄があれば、それについて話してもらう。

留 テキストのイラストは、話のきっかけを与えるためのものなので、全部について詳しく説明したり、話したりする必要はない。

お正月クイズ

発 よく話せる学習者には「お正月クイズ」を解きながら、日本や学習者の国のお正月について話すのもよい。

活動2

- ・「一年の計は元旦にあり」の意味がわかるか、聞いてみる。わからなければ説明する。学習者の国にも同じようなことわざがあるか聞くとよい。

参 一年の計は元旦にあり：一年の計画は年の初めである元旦に立てるのがよい。物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だということ。

「今年の目標」
用紙
サインペン
筆ペン

- ・パオさんの年賀状を読んでから、まず、グループで、今年やってみたいことを自由に話す。「やってみたいこと」はいわゆる「目標」でもいいし、「〇〇へ行きたい」とか「〇〇を買いたい」のような実現したい希望でもかまわない。
- ・次に今年の目標をテキストに書いてある文型を使って書く。
- ・「今年の目標」の用紙に、自分の目標を書く。ボランティアはどう書いたらいいか手助けをする。
- ・用紙下の「だるま」の意味を説明し、目標が達成できたら目を書きこむように言うておく。

活動3

「お笑い神事」
資料

参 「だるま」は禅宗の開祖達磨大師だるまだいしが壁に向かって9年の座禅をした姿を模したものだと言われている。縁起物として広く親しまれており、何らかの願い事をしたときに片目を書き入れ、願いが叶うともう一つの目を書き入れる習慣がある。特に決まりはないが、左目（向かって右目）から書き入れるのが一般的。

- ・「笑う門には福来る」の意味を聞いてみる。学習者の国にも同じようなことわざがあるか聞くとよい。
- ・「笑いの効用」をみんなで考える。学習者からあまり出なければ、「気持ちが明るくなる」「顔の筋肉を動かすので美容にいい」など、ボランティアが分かりやすい例を出す。

参 大阪府東大阪市の「枚岡神社」ひらおかじんしゃでは毎年12月下旬に笑って新年の幸せを願う「お笑い神事」がある。

- ・テキストの「あいさつ笑い」「ライオン笑い」「顔のじゃんけん」をみんなでする。これはおもしろいことで笑うのではなく、「笑いの体操」であることを説明する。最初に準備運動をすると活動に入って行きやすい。まずボランティアが見本を見せる。
- ・「顔じゃんけん」の「グー」はすっぱいものを食べた時、顔の筋肉が真ん中による感じ、目は閉じない。「チョキ」は口をとがらせ、鳥のくちばしをイメージする。
- ・顔じゃんけんをする二人が向き合い、もう一人が「じゃんけんポン」と掛け声をかける。

留 ボランティアは恥ずかしがらずに、大きな動作と大きな声で「笑い」の見本を見せること。とても恥ずかしがったり、参加したまらない学習者には活動を強要しない。

- ・福笑いのやり方を説明する。

活動4

福笑い
目隠し用タ
オル

発 「いちばん上手にできた人」「いちばん面白い顔になった人」など基準を決めて「福笑い大賞」を授与したり、ペアを1組として、数組で顔が出来るまでの時間を競うなど、いろいろ工夫して福笑いを楽しむ。

